



ワークシート 解答例

- (1) (対象となる人)現役並みに所得の高い人を除いた 75 歳以上の人(後期高齢者)。
(現在の自己負担割合) 1 割
- (2) ・ 例後期高齢者と、その医療費の 4 割を負担する現役世代との間で、負担の公平性を確保するため。
・ 例団塊世代が 2022 年から後期高齢者になり始め、医療費の一層の膨張が見込まれるため。

解説

- (1) 「後期高齢者」とは 75 歳以上をさす。「年代別医療費の窓口負担割合」の表から、現役並みの所得の人は何歳であっても 3 割を負担していること、一般・低所得者については 70～74 歳は 2 割、75 歳以上は 1 割負担となっていることをおさえる。
- (2) 本文 1 段目に「75 歳以上の医療費は伸び続ける一方、費用の 4 割を現役世代が払う保険料で賄っており、世代間の公平性を確保するのが狙い」とまとめて説明している。「75 歳以上の医療費」の伸びについては、2 段目に、今後団塊世代(1947 年ごろから 1949 年ごろにかけての第 1 次ベビーブーム時代に生まれた世代。他の世代に比較して人数が多い)が 75 歳以上になり、後期高齢者の人数が増加するとともに医療費も膨張するという背景が書かれている。「世代間の公平性」については同じ 2 段目に「75 歳以上の医療費は約 16 兆円に上り、このうちの 4 割を現役世代が支払う健康保険料からの支援金が占める」と説明している。